

年度	平成16～18年度
----	-----------

基本目的 1 市民が快適に暮らせる町になる

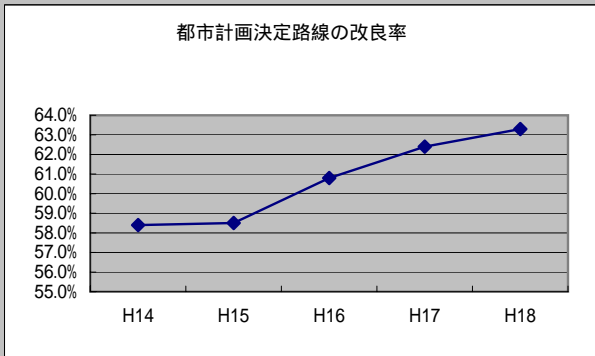
行動目標 1-1 快適に暮らせる生活基盤が整う (所管課名 都市整備部道路整備課)

任務	快適な暮らしと産業活動を支える良好な交通ネットワークを構築する
-----------	--

任務の成果・活動指標の推移

都市計画決定路線の改良率

H14実績	58.4%
H15実績	58.5%
H16実績	60.8%
H17実績	62.4%
H18目標	63.3%



指標の説明

道路整備による整備効果を測る指標は、いろいろ考えられるが、日常生活の中で市民に理解を得やすい指標としては、道路改良率がふさわしいため道路整備課では、都市計画決定路線の改良率を指標として掲げた。
 [市が整備を行う都市計画決定路線の総延長: 100,027m]

任務に対する評価

これまでの取組と成果、手段の妥当性

平成16～17年度

国道1号、23号を中心とする南北交通の渋滞緩和を目的に平成初期より堀木日永線、阿倉川西富田線、赤堀山城線等の路線を整備してきた。これまで市が整備してきた都市計画決定路線の改良率は、平成15年度(58.5%)ベースで、平成16年度2.3%増、平成17年度3.9%増の成果指標となった。この結果、平成16年度には阿倉川西富田線、赤堀山城線の一部区間、平成17年度には堀木日永線を全線供用開始したことで2箇年で3,878mの整備促進を図った。

一方、公共交通機関を活用した渋滞緩和対策に積極的に取組みパークアンドライド・キスアンドライドなどの促進のため近鉄・三岐富田駅前広場整備を進めている。

これらの取組によって市北部地域における道路整備は、一定の効果上げた。しかし、中南部地域では、なお一層の渋滞緩和対策が必要であり、国道、県道などの広域道路網と連携した道路網の整備は、四日市市道路整備計画に基づき必要不可欠である。

平成18年度

平成18年度は、改良率63.3%以上の整備促進を目指して各種事業に取組む。主要事業としては、平成17年度完成にむけ取組んでいた阿倉川西富田線を翌年度に繰越したことから平成18年度当初の開通に向け鋭意取組む。また、山村平津線、環状1号線の整備を進めることにより市北部からの交通を円滑に市中心部に導く見込である。

計画期間における目標達成に努め、「市民が住み続けたくなるまち」を実現するために安全・安心な道路整備を実現する。

これからの課題、施策等展開の方向性

四日市市道路整備計画に基づき、市内幹線道路ネットワークを構築するため南北道路、東西道路の強化が必要であり引き続き推進する。また、幹線道路の利用率を高めるため準幹線道路の整備を実現する。

一方、自治会等から提出される土木要望の実施率が低いことから行政の実行力が求められている。このため、市民ニーズに対応した要望の実施率を向上させるため、仮称「地域環境整備事業」を重点事業として取組む。

近い将来、発生が危惧される大規模地震に備え、発生後の緊急活動や避難通路の確保のための主要路線にある既存橋梁の耐震化事業を推進する。